講演会

越境文化と芸術

「越境文化（トランスカルチャー）」とは、従来の異文化研究と異なる価値観を探究する際に用いられる概念です。従来の異文化論は、ある文化に属する者が他者の文化（異文化）と遭遇し、他者を理解するという考え方に基づいていますが、これでは、文化間に潜むヘゲモニーを覆すことができないという批判が近年の文化研究によって行われました。文化とのあいだにある種の勢力の作用が働く現実の国際社会では、自分の文化と他の文化を明確に分けて、それを交流させるという一般的なインターカルチャーの試みは、勢力の構図を変えられないどことか、現状を助長する危険性があるという批判がなされています。

このような批判を踏まえて、越境文化論者は、自分が属する文化圏、他の文化圏の差に関わらず、自分（たち）にとって極めて「異他的なもの(Fremdheit)」に「遭遇する(widerfahren)」経験を通じて、自分たちの文化の状況をラディカルに問い直すことを目指しています。越境文化論者は、私たちが普段「文化」と考えている価値観の問題を克服しようとする点において、文化を越境する（＝トランス―カルチャー）ことを目指しています。異文化同士の交流が豊かになるとしたら、それは、自分たちがまずこのような文化の越境を試みることで可能になるのです。

本講演では、この可能性についてギュンター・ヘーグ氏にお話いただきます。ヘーグ氏は演劇学の立場から越境文化論の論文を多く発表し、著作『越境演劇』の出版を直前に控えています。講演では、越境文化の基本的な考え方と、それが芸術（経験）においてどのように有益になるかについて論じ、参加者と討論いたします。

記

講演者：ギュンター・ヘーグ氏　（ライプツィヒ大学演劇学研究所所長・教授）
司会：平田栄一朗（本塾文学部教授）
日時：2015 年 10 月 1 日　16：30－18：00
場所：三田キャンパス南館 4 階会議室
主催：慶應義塾大学文学部独文学専攻

＊講演はドイツ語で行われます（通訳なし）
＊予約不要
連作先：hirata@flet.keio.ac.jp (平田栄一朗)